

## 「北限の桃」に発生した生育障害について

園芸振興課

鹿角地域で栽培されている「北限の桃」に5月中旬頃から樹の枯死や衰弱する症状が確認されたことから、生育障害の発生状況について調査を行った。

### 1 状況調査の実施

- (1) 調査月日：6月5日～12日
- (2) 調査対象：もも生産農家44戸（鹿角もも生産農家160戸の約1/3）
- (3) 調査方法：鹿角地域振興局、鹿角市、JAかづのの職員が園地を巡回し、被害程度別（枯死、衰弱）に発生本数を調査した。

### 2 調査結果

- (1) 枯死本数274本、衰弱本数468本、計742本に障害の発生が確認され、発生率は19%で枯死率は7%であった。
- (2) 障害の発生は、地域、品種、樹齢などによる差はみられない。



生育障害の状況

#### 【主な症状】

- ・ 葉の展開が全くみられず、枯死している。
- ・ 開花後、葉が萎れて枯死している。
- ・ 葉は展開しているが、葉が小さく、色も薄く、生育が非常に弱い。

### 3 発生要因

地際から高さ約30cmの幹の南西側表皮部分が褐変する症状が確認されたことから、昨年11月中旬などの低温による凍害が主な要因と考えられるが、他の要因を含めて、今後、詳細について調査・解析を実施する。

### 4 今後の対応

- (1) もも生産農家全戸を対象に、障害発生状況に関するアンケート調査を実施し、7月上旬までに被害の実態を把握する。
- (2) 鹿角地域振興局（かづの果樹センター）と果樹試験場が連携して、発生要因の究明を進め、今年の越冬管理対策に反映させる。
- (3) 障害発生樹は、枯死樹だけでなく、衰弱樹についても回復が難しいと考えられることから、来春の改植に向け、今秋までに苗木を確保するよう指導する。